

門脇重綾 しげあや 國學者。文政九年伯耆國會見郡渡村生れ、明治五年八月二百奴（一八六一七二）。通稱少造、將曹。號蝶園。加納諸牛、飯田年平の學ぶ。文久二年「伯耆志」編纂のため、會見・白野兩郡を調査。のち京都詰周旋方、記録方助役、慶應四年（西園寺公望山陰道鎮撫使の附添御用掛を務め、内國事務局權判事、傳宣諸侯掛、議政官辯事、翌年彈正大忠に任じた。九月大村益次郎暗殺事件の異議で謹慎處分を受く。その後神祇少輔、教部大丞を歴任。

著書に「蝶園集」（内題「蝶園遺稿」明治十一年四月門脇氏藏版、吉岡十次郎刊）、『名和氏紀事』（明治三十二年九月）二百鳥取・郁文堂）等。

